

寅彦の情報あれこれ・編集後記

【会員の著書紹介】

『寺田寅彦「藤の実」を読む』（山田功・松下貢・工藤洋・川島禎子、窮理舎、2021年12月31日）口絵12頁／132頁。

山田氏は本会副会長、川島氏は本会会員。
〈帯の文章の転記〉

物事の「潮時」に切り込む寺田物理学の本質（エッセンス）、偶然と必然のはざまに潜むものとは何か、藤の実の一斉爆発、銀杏の一斉落葉、家族の相次ぐ事故、流感の流行、地震の群発、山火事の多重発生…。潮時の引き金をひくのは何か。

（目次構成）

口絵：寺田寅彦のメモや共著論文草稿、フジの花と実、莢が弾けた様子等の各カラー写真。

まえがき（松下貢）

藤の実（吉村冬彦）／注釈（細川光洋監修）

寺田寅彦の「藤の実」を読む（山田功）

「藤の実」によせて：偶然と必然のはざま（松下貢）

植物生態学からみた「藤の実」（工藤洋）

寺田寅彦「藤の実」に見る自然観（川島禎子）

付録（藤の莢の不思議な仕掛：平田森三／破片（抄）：吉村冬彦／雪子の日記：寺田寅彦／

鎖骨：吉村冬彦）

寺田寅彦 略年譜（川島禎子監修）

寺田寅彦 略年譜（川島禎子監修）

寺田寅彦の「藤の実」は昭和8年に発表されましたが、その後の物理学、植物生態学、文学の各研究・発展の成果が込められています。山田氏の藤の莢が弾ける観察や写真・動画撮影、松下氏の首の長い砂時計の砂の流れの実験は貴重な実践の記録です。工藤氏は植物の同調現象を分かり易く説明しています。川島氏は寅彦が映画鑑賞に応用した連句理論

を「藤の実」に適用して、随筆が「三つ物」の構成になっているとし、「偶然」という言葉で同列のものを並べていく手腕を連句の付句のようだとしています。



『寺田寅彦「藤の実」を読む』表紙

【編集後記】

野村さんのシリーズ「寅彦の見た風景」、今回は荒倉峠です。寅彦にならって自転車で出かけてくれました。朝倉の姉の家や須崎への道について実証されています。

世木田さんのエッセイは同人誌の再掲です。転載のご快諾を感謝致します。

故山本会長の追悼文を寄せていただいた皆様に深謝致します。それぞれ貴重な思い出が語られていて、10年間の活動の多様さがよく分かります。まだまだリーダーシップを発揮していただきたかったのが残念でなりません。

【講演会・総会のお知らせ】

令和4年度寺田寅彦記念館友の会講演会・総会を下記の日程で行います。

日時 令和4年4月24日（日）

午後2時講演会、午後3時総会

場所 寺田寅彦記念館

演題 寺田寅彦と坂本龍馬（講師 宮英司）

議題 役員について、会則の改正など

新型コロナ感染状況等により、中止の場合はHPでお知らせします。あるいは電話で記念館までご確認ください。